

# CASBEE<sup>®</sup>新潟 | 評価結果



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版  
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

## 1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	(仮称)株式会社ウオロク新物流センター新築工事 江南区 茗荷谷字東団815番 他 市街化区域、法第22条区域 事務所、工場 2016年3月 竣工 48,411.85 m <sup>2</sup> 16,001.78 m <sup>2</sup> 23,686.31 m <sup>2</sup> 地上2階、塔屋1階 S造 実施設計段階評価 2015年3月1日	
---	--	--

## 2. CASBEE新潟の評価結果

	B+	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{52.9}{48.9} = 1.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

## 3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	2.8		バリアフリー	1.0
			維持管理	4.5
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.0		耐震・免震	3.0
			信頼性	3.0
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	3.0		雨水排水負荷低減	3.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.0		建物の熱負荷抑制	3.0
			自然エネルギー利用	3.0
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	2.3		節水	3.0
			リサイクル材の使用	1.0
			再利用可能性向上	3.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	2.0		生物環境の保全・創出	2.0
			敷地内温熱環境の向上	2.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

## 4. 新潟市の重点項目の配慮事項

--	--

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

# CASBEE<sup>®</sup>新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築 (簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)  
CASBEE-新築 (簡易版) 2010年追補版 (BEI対応)

## 評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)株式会社ウオロク新物流センター新築工事	階数	地上2階、搭屋1階
建設地	新潟県新潟市江南区	構造	S造
用途地域	市街化区域、法第22条区域	平均居住人員	0人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年3月 竣工	評価の実施日	2015年3月1日
敷地面積	48,412 m <sup>2</sup>	作成者	佐藤 春樹
建築面積	16,002 m <sup>2</sup>	確認日	2015年3月15日
延床面積	23,686 m <sup>2</sup>	確認者	早川 紀元



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub> (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.9

**LR のスコア = 3.0**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.6

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b>	建物が必要以上のエネルギーを消費しないよう適正なモジュール、規模となるよう計画した。特に、冷凍設備稼働時の冷却空間に無駄が出ないことでライフサイクルエネルギーの低減を図った。温暖化に対しても環境配慮型の物流センターとして、外壁、屋根の仕上げ材、色に配慮し、冷却システムは環境に配慮した冷媒が使用できるシステムを選定した。	
<b>Q1 室内環境</b>	<b>Q2 サービス性能</b>	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b>
作業員のアメニティの向上に配慮し、閉鎖的な倉庫内に太陽の光が入るような仕様とした。倉庫、事務所ともに南側に開口をとっているが、LowEガラスを使用し夏の暑さに対しても対策をとっている。	平面に広い建物であるので、利便性向上のため、動線が短くなるような計画とした。倉庫内は気密性を向上させ外気の侵入、冷気の流出に配慮した。事務所では十分な天井高をとり、過ごしやすい空間とし、衛生管理にも十分に配慮した計画とした。	周辺環境を考慮し、建物は周辺の道路から十分な距離を持つ配置計画としている。さらに道路に面して緑地帯を設けた。また、十分ゆとりを持った車道を整備することで、使いやすさにも配慮した。
<b>LR1 エネルギー</b>	<b>LR2 資源・マテリアル</b>	<b>LR3 敷地外環境</b>
冷凍設備の冷媒は環境に配慮し自然冷媒を使用しており、通常フロンを冷媒とするよりも使用エネルギーを低減を図っている。また、1階は陽圧空調管理を行い外気の流入を抑制し安定的な環境を継続することでエネルギーの低減を図っている。	外壁には耐候性の高い素材を使用し、縦張りとすることで、汚れに対しても配慮している。	周辺の道路に対しては、緑地を整備し、道路空間の質の向上にも貢献できる仕様としている。計画建築物は、周辺地域のランドマークとなるように、白を基調とした清潔感のあるデザインとした。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される